

<水収支について>

降水量のうち、一部が蒸発散により大気に戻り、残りが表流水等として流出し、一部が地下浸透して盆地・台地域に流入している。

また、河川水や地下水を農業用水として灌漑利用する場合は、灌漑期の水田湛水により人為的に地下浸透が助長され、水田湛水による蒸発散量や表面流出量が増大する。

地下水を揚水し、上水、工業用水等として利用する場合は、地下水賦存量が減少する。

したがって、気象データ、地形データ、地下水利用状況などのデータに基づいて、降水量、蒸発散量、表面流出量、地下浸透量、地下水賦存量と地下水の取水量を整理し、地域ごとの水収支の状況を把握している。

